

オリジナルミュージカルを教材とした アクティブ・ラーニング

河野 久 寿

(2017年3月11日受理)

1. はじめに

昨今、教育界においてアクティブ・ラーニングへの転換が推奨され、高等教育においては以前より言及されていたが、初等中等教育、また幼児教育までもその波が押し寄せている。

大学教育におけるアクティブ・ラーニング定着のきっかけとなったのは、2012年8月28日の中教審（文部科学省中央教育審議会）の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(質的転換答申)であり、その資料の中で、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」と述べられている。

後の議論を経て、指導要領改定に向けた2016年12月の中教審答申では、「授業改善の視点」と位置づけ、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではない」と述べ、更に2017年2月の学習指導要領改定案では、中教審の答申におけるキーワードであるアクティブ・ラーニングという言葉は使われず、「主体的・対話的で深い学び」と表現され、同省は「アクティブ・ラーニングという言葉が非常に多義的で、概念が成熟しておらず、法令には使えない」、「指導要領は広い意味での法令であり、しっかりした定義のない片仮名語はなかなか使えない」と説明している。

このような変遷を辿り、広義の意味を持つアクティブ・ラーニングであるが、本稿では、上記の観点を意識した授業作り、オリジナルミュージカル教材制作における工夫、発表会またはアンケート等の結果を踏まえ考察する。

本学幼児教育学科では、平成23年度より、「音楽表現」「造形表現」「身体表現」「言語表現」の各分野にて専門性、高い表現力、実践力のある保育者養成を目指した選択履修プログラムを実施している。本稿のオリジナルミュージカルはそのプログラムの中の保育内容領域（表現）科目『表現総合演習』（音楽表現）にて実践され、最終的には年度末に行われる「発表会&造形作品展」での発表を目指し練習を積み重ねる。

また、学生とともに仁愛女子短期大学附属幼稚園年長児も共演し、学生は子どもたちと関わりながら、追求してきた「表現力」の成果を、地域の子どもたちや保育教育関係者へ公開する事で、地域社会への貢献を目指している。

2. なぜオリジナルミュージカルなのか

昨今のスマートフォン等電子機器の普及により、若者の他者との直接的な関わりが少なくなっているのは事実であろう。学生が卒業してからの就業の場、社会においては、嫌でも人と関わる事になり、その関わり方、繋がりが重要である。

高等教育においては、個々が役割を果たしながら集団で作り上げる取り組み、科目は少ない。音楽表現にて集団で作り上げる手段としては、合唱、合奏も当然あるが、ミュージカルはその完成まで、音楽のみならず、セリフの発声・表現、身

振り手振り・または舞台上での動き、舞台上の制作物、衣装等、様々な要素がある。また、学生同士での分担決めや、話し合いが必要となる。これらの活動の中で、他者と直接的に関わり、協調性を伸ばすのもねらいの一つである。またオリジナルの脚本・楽曲はより学生の音楽能力・経験を生かしたものにしやすい。

もう一つの重要な点として、この授業の目標が勿論音楽の技術・表現力の向上であり、個人個人に対しても対話をしながら、学生個々の能力に沿った形で、演奏の場を設けることができる点である。役者の歌唱力が無い場合でも、その場において最大限の表現を行うことに主眼を置いている。

これは、将来の保育現場において先生となるための表現訓練の場として考えている。

このオリジナルミュージカル教材による発表へ向けての活動を通して、“主体的、かつ対話的、能動的”、個々の音楽表現力を広げる“深い学び”へと繋げている。

3. オリジナルミュージカル教材制作について

平成28年度のオリジナルミュージカル「はなと太郎の夢物語」は脚本を市原隆靖氏に依頼、作編曲を筆者が行っている。本来であれば、学生が脚本、作曲も担当し、全て学生の手による作品として作り上げたいところであるが、作曲においては専門的な技術を要し、授業の始まる2回生後期までに事前準備をすることは難しく、また、仮に授業開始2回生後期15回の中で制作しても練習時間がない等の理由から、脚本楽曲は事前に準備している。

脚本制作においては、あらかじめ筆者より学生出演人数、幼稚園園児の大きな負担にならない出演機会、公演時間（約30分）、ミュージカルの教育的観点などを伝えている。

脚本完成の後、歌唱用スコア（譜例1）、及び合奏用スコア（譜例2）を準備する。

それらの制作にあたっては、事前のアンケートにて楽器等の音楽経験歴、ミュージカルにて担当したい役・楽器を調査し、それを基に編成、作編曲を行っている。歌パートについても、1回生

「音楽」における歌唱成績を参考にしながら、学生のレベルを鑑みて作曲している。

このオリジナルミュージカル教材制作における一つのポイントは、歌・楽器演奏ともに必ずソロ部分を作るということである。発表会にて多くの観客を相手に、ソロ部分を演奏する1対大勢という緊張感は大きな経験になり、それは発表に対する学生個人の責任感を喚起し、ミュージカルへの関わりも主体的なものにするという狙いがある。

これらのことから、本ミュージカルは様々な教育的な要素で構成されたミュージカルと言える。

4. 平成28年度オリジナルミュージカル

「はなと太郎の夢物語」について

○ストーリー

ある夜、はなは寝る前に母親から「マッチ売りの少女」の話を聴き、太郎は父親から「泣いた赤鬼」の話を聴く。それぞれの物語の主人公を不憫に思い、悲しみの中で眠りについた二人。夢の中で二人は出会い、それぞれの物語の主人公を助けるため力を合わせハッピーエンドにする。（上演時間約30分）

○キャスト18名

【マッチ売りの少女】

はな。はな母。マッチ売りの少女。

通行人4人 計7人

【泣いた赤鬼】

太郎。太郎父。赤鬼。青鬼。

村人7人 計11人

【その他】

夢案内（幼稚園児）60名

○楽曲

「マッチ売りの少女」「はなちゃんの寝室」

「泣いた赤鬼」「村にて」「太郎くんの寝室」「はなと太郎の夢の中」「青鬼との出会い」「夢案内」「フィナーレ」全9曲。

○楽器編成

フルート2、クラリネット、トランペット

2、電子ピアノ、キーボード4、ドラム、パーカッション（鈴、タンバリン、グロッケンシュピール、ウインドチャイム）。キーボードはYAMAHA製キーボードで、その中で、ベース、バスドラム（ドラム奏者も初心者のため分割）、ストリングス、ティンパニ等を役割分担。



歌唱スコア

はなと太郎の夢物語

scene9 夢案内

市原隆靖作詞
河野久寿作曲

♩ = 105 ca.

夢案内

honorific title: *Sra*

Piano *mp*

はなちゃん

6

夢案内

たろうくん そして あおおに さん あなたたちは とつてもー

Pno.

11

夢案内

やさしい の ね わたしたちは

Pno.

15

夢案内

ゆめあんない です このせかいの こと

Pno.

19

夢案内

は なんでもしつてるの あそこにとんねる

Pno.

23

夢案内

が あるでしょう あれは ひみつの

Pno.

-1-

(譜例1 歌唱用スコア)

合奏スコア

はなと太郎の夢物語

scene9 夢案内

市原隆靖作詞
河野久寿作曲

♩ = 105 ca.

夢案内
はなちゃん たろうくん そして あおおに

Flute
Clarinet in B♭
Trumpet in B♭
Strings
Glockenspiel
Piano
Bass

夢案内
さん あなたたちは とっても やさしいのね わたしたちは

Fl.
B♭ Cl.
B♭ Tpt.
Str.
Glk.
Pno.
Bass

夢案内
ゆめあんないです このせかいのことは なんでもしつてるの

Fl.
B♭ Cl.
B♭ Tpt.
Str.
Glk.
Pno.
Bass

-1-

(譜例2 合奏用スコア)

○PA機器について

合奏用のメインPAとして、YAMAHA STAGEPAS 400iを使用。キーボード、電子ピアノはYAMAHAアナログミキサーMG82cxに集約しSTAGEPASへ通した。

発表会においては、STAGEPASのOUTから会場のメインスピーカーでの音出しも行った。

また、生楽器類（フルート等）についても、本番では4本のマイクを通して、メインスピーカーへと通した。

役者用にaudio-technica ATW-1101/Hワイヤレスシステムを最大使用可能台数8台用意し、YAMAHA アナログミキサーMGP16Xにて、システムを構築した。

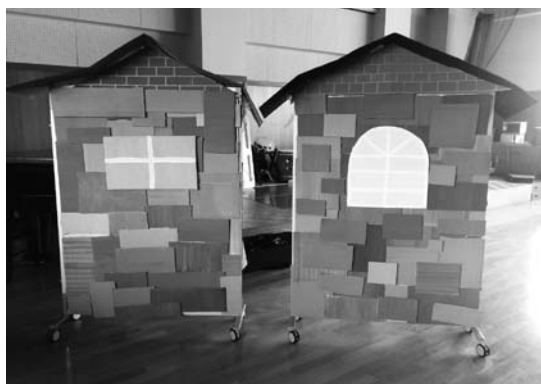
以上のものについて、筆者が準備、配線セッティングを行った。

発表会では、ワイヤレス音声をミキサーよりメインスピーカーへ通し、また、ワイヤレスマイクを使わない役者用にステージ上にもスタンドマイク2本、ステージ前方にも幼稚園園児用に床置きマイクをセッティングした。



○造形物について

ステージ上造形物については、その係を決め、話し合いをしながら制作された。



はなと太郎の家（パネル表）



村のシーンでの家（パネル裏）



夢案内シーンのトンネル

○衣装について

役者については各自で準備をした。夢案内（附属幼稚園園児役）については、デザインを学生同

士で話し合い、附属幼稚園に助言を貰いながら60名分の衣装をミシンにて制作した。



5. 授業の進行について

初回授業において、配役および楽器担当を希望制で決め、希望者が複数いる場合は、教員審査によるオーディションによって決定した。決定後は役者組と合奏組に分かれ音取りを行う。

演奏可能となった楽曲から、歌と合奏にて合わせをし、授業数回は、その繰り返しにてクオリティを上げていく。

楽曲に慣れて来た段階から、セリフを交え、身振り手振りの動き、または全体の動きを加えて行く。

その後は、通し練習、附属幼稚園児との合同練習、発表会会場でのリハーサルへと繋がる。

また、造形物、衣装についても、授業回数半ば頃に役割分担を決め、学生が相談しながらアイデアを出し、授業時間ではミュージカル練習時間に費やすため、授業時間外に制作を行った。

6. 「発表会 & 造形作品展」

平成29年2月11日(土) ハートピア春江大ホールにおける発表会本番では、大雪の影響もあり来場者数は約550名であった。

発表会本番の演奏について、役者は日頃何度も通し練習を積み重ねた事もあり、ミス無く練習の成果を発揮した。



合奏については、弾く事で精一杯となり、本番慣れしていない事から日頃やらない様なミスをする学生もいたが、安定した演奏を行うことができた。

特筆すべきは、幼稚園園児の堂々たる姿・歌声であり、またフィナーレにおける、世代を越えた学生と園児の歌声の融合も大変素晴らしいものであった。



7. 発表会后アンケート及び結果について

～来場者アンケート～

アンケートのお願い	
仁愛女子短期大学幼児教育学科 本日は、幼児教育学科の発表会にお越しいただき、誠に有難うございます。 お忙しいところ申し訳ありませんが、今後の参考にさせていただくため、アンケートにご記入の上、回収ボックスに投函 していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。	
Q1	あなたご自身について、お伺いします。該当するものを○で囲んでください。
ア.	ご年齢は？ ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代以上
イ.	ご職業は？ ① 保護者の方 ② 幼稚園や保育所の先生 ③ 大学生 ④ 高校生 ⑤ その他（ ）
ウ.	今日はお子様連れでしたか？ ① はい（何人ですか？ ）人 ② いいえ
Q2	ご覧になった発表を○で囲んでください。（複数回答可）
	① ステージ発表 ② 制作展示
Q3	ステージ発表についてお尋ねします。
ア.	ステージ発表は楽しむことができましたか？ 該当するものを○で囲んでください。
	① 非常に楽しかった ② まあまあ楽しかった ③ あまり楽しくなかった ④ 全然楽しくなかった
イ.	その理由を教えてください （ ）
ウ.	特に印象に残った発表があればその発表名を教えてください。 （ ）
Q4	制作展示についてお尋ねします。
ア.	制作展示の作品はどうでしたか？ 該当するものを○で囲んでください。
	① 非常に良かった ② まあまあ良かった ③ あまり良くなかった ④ 全然良くなかった
イ.	その理由を教えてください （ ）
ウ.	特に印象に残った展示があれば展示名を教えてください。 （ ）
Q5	どのようにしてこのイベントを知りましたか
	① 新聞 ② テレビ・ラジオ ③ チラシ ④ 子どもが出演している ⑤ 知り合いから ⑥ その他（ ）
Q6	今回の発表会についての率直な感想、気になった点、アドバイス等をご記入下さい。
	<input style="width: 400px; height: 40px;" type="text"/>
ご協力有難うございました。どうぞお気を付けてお帰りください。	

～来場者アンケート結果（抜粋）～

Q3 ステージ発表についてお尋ねします。

ア. ステージ発表は楽しむことはできましたか？該当するものを○で囲んでください。

	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代以上	記載なし 10歳以下	合計
①非常に楽しかった	9	18	25	10	7		73
②まあまあ楽しかった	1	10	7	5	3		27
③あまり楽しくなかった							0
④全然楽しくなかった							0
記載なし							3
合 計	10	28	33	15	12	0	103

～来場者アンケート結果（抜粋）～

この結果については、発表会におけるステージ発表全般での結果であるが、イ.その理由を教えてください。では、「ミュージカルはとても頑張っていたと思います。赤鬼と青鬼が上手でした。」

「歌もあり、ミュージカルもあってよかった。」

「泣いた赤鬼がとってもよかったです。」「音楽も教育的内容も盛り込んでいて子どもが楽しめるので良かった。」といったご意見をいただいた。ウ.特に印象に残った発表があればその発表名を教えてください。では、ミュージカルとの回答が多かった。

Q6 今回の発表会についての率直な感想、気になった点、アドバイス等をご記入ください。におけるミュージカルに関するご意見として、「ミュージカル感動しました！（30代）」「生演奏はすごくいいです。（30代）」「音楽は、歌も上手いし、曲もそれに合わせて作っているの、他の分野よりも上手く完成度も高く感じる。セリフもなぜか他の分野よりもうまいし、こなれている。（50代）」「フィナーレがじんとききました。とってもよかったです。（60代以上）」などの感想をいただいた。

～学生アンケート結果（抜粋）～

Q2 真剣に取り組む事ができましたか？

全員の学生が“はい”と回答した。

Q3 反省点がありますか？

「ありません。練習通りでできました。」

「作り物や衣装の完成が遅くなってしまったため、本番が近くなってから焦るのではなく、もっと前から皆で協力することができたら良かった。」「練習以上にできた。」「練習の時にはできたが、本番ではキーボードを間違ってしまった。」

「もう少しセリフを言う時に感情を入れるべきだったと思うし、動き等をもっと大きさにして表現するべきだったと思いました。」

「やる気がでるのが遅すぎた。」

Q4 今回の発表会&造形作品展で保育者になろうとするあなたが学んだ事は何か？

「皆で協力し合うこと。恥を捨ててその役に足りきり、相手が分かりやすいように工夫するこ

～学生アンケート～

平成28年度 幼児教育学科 発表会&造形作品展 学生アンケート		
学籍番号	氏名	選択履修分野
Q1 今回の発表会&造形作品展であなたは何を担当しましたか？		
<input type="text"/>		
Q2 真剣に取り組む事ができましたか？		
<input type="text"/>		
Q3 反省点がありますか？		
<input type="text"/>		
Q4 今回の発表会&造形作品展で保育者になろうとするあなたが学んだ事は何か？		
<input type="text"/>		
Q5 今回の発表会&造形作品展は保育者になろうとするあなたにとってどのような力を身につけるものだと思いますか？		
<input type="text"/>		
Q4 今回の発表会&造形作品展について、感想、アドバイスがあれば記入して下さい。		
<input type="text"/>		

と。」「子どもの目線になり、子どもたちを楽しませたり、一緒になって楽しむこと。」

「大人数で一つのことをやり遂げる大変さ。」「自分の役割に責任を持つこと。」

「大勢の人前に出ることは緊張するが達成感が凄い。」「皆で協力して準備から発表する大変さ。」

「歌を歌う力、表現力」「協調性」「発表会の出し物の企画、運営方法」「言葉以外の表現の仕方」「演技力（6歳児の気持ち）」「堂々と笑顔で取り組むこと。」「準備の大切さ」「練習の大切さ」「子どもたちが喜んでくれるように、たくさんアイデアを出して、たくさん練習・準備をすること。」「みんなで一つのものをつくることの楽しさを知った。」

Q5 今回の発表会&造形作品展で保育者になろうとするあなたにとってどのような力を身につけるものだと思いますか？

「表現力」「子どもたちを楽しませたり、自分の役割に責任を持つこと。」「人前に立って大勢の

人に働きかける技術。」「チームワーク力」「発表までの計画や段取り」「周りをみる力、協力する力」「子どもと楽しむ」「前に出る勇気」「歌唱力」「子どもに喜んでもらえるようなアイデア、子どもの前に立つ度胸」「コミュニケーション力や多くの人をまとめる力、積極性」「団結力」「創造力」「保育者としての自覚」「目標に向かって自分なりの努力をし、達成させる力」

8. 発表会DVDについて

発表会後はDVDを配布し、後から振り返る事で学生にとっての有益なフィードバックの機会としている。



9. 考察

最終的に発表会での客観的な評価が如何様あったかは重要なところである。その点において、来場者アンケートにて好評価であったことは、学生アンケートにおける「真剣に取り組んだか」、という問いに全員が“はい”と答えた結果に全てが集約されている。

学生アンケートの結果からも、学生にとってこのオリジナルミュージカル実践が“深い学び”へ繋がったと言える。

練習進捗の実際は、週に1度の練習機会では、3歩進んで2歩下がる状態であったが、2月の発表会に近づくにつれ徐々に学生が主体的に動き、本気度も増していった。

より良いアクティブ・ラーニングの場とするには、教材や機材等で「ベストな環境を整える」、学生のやる気を引き出すための「学生との対話の仕方・指導の仕方」が重要であろう。

今後も、「感動が人を動かす」信念で、改善に努める。

<謝辞>

発表会に際し、本学の教育活動にご理解ご協力いただいた、仁愛女子短期大学附属幼稚園の先生方、保護者の方々、そして大いに活躍してくれた園児たちに感謝申し上げます。